

当会会員の日本製鋼所、日本製鉄、月島機械が、2019年5月30日付の日刊工業新聞に紹介されました。

大手企業とモノづくり企業

北海道室蘭市

北海道室蘭市で日本製鋼所や日本製鉄など広大な工場敷地を持つ企業と、その工場内で製品や部品を生産する企業との連携が進んでいる。月島機械は日本製鋼所室蘭製作所内に室蘭工場を開設。大岡技研（愛知県豊田市、大岡由典社長、0565・52・3441）は、日本製鉄室蘭製鉄所内に室蘭第2工場を本格稼働した。両事例とも事業におけるウィンウィンの関係が成り立つ。地元への波及効果も期待されている。

（札幌支局長・村山茂樹）

工場内連携で ワインワイン

「秋口にはフル稼働が製品やスチームチューにより生産性向上が課題する」。月島機械の山一ブドドライヤー（乾燥機）を製造している田彰彦常務執行役員室蘭工場は、4月の室蘭工場の開所式で今後（川市）の製造機能を室蘭工場に移転。市川工場は2020年度までに閉鎖する。

月島機械にとって、海外企業との競争激化

月島機械にとって、海外企業との競争激化



日本製鋼所の室蘭製作所内の施設を活用した月島機械の「室蘭工場」

日本製鋼所×月島機械

日本製鉄×大岡技研

一方、日鋼は発電設備の稼働率が下がった。月島機械の工場は発電設備の稼働率が下がった。月島機械の工場は発電設備の稼働率が下がった。月島機械の工場は発電設備の稼働率が下がった。

仕事を相互融通、ノウハウ共有

業部長兼室蘭製作所を構内で構築できる。長。両社は相互に仕事やノウハウを融通し、生産ノウハウも共有する。「米国向けのAT（自動変速機）部品を、両社の利点を強調す今年から新たに立ち上る。大岡技研の松本社長は4月、室蘭第2工場の開所式で事業拡大に意欲を見せた。大岡技研は事業継続計画（BCP）の観点から、顧客企業の事業拡大やBCPなどのニーズを踏まえ、物置工場を開設した。その後、需要拡大を背景に第2工場を検討。直接部材を調達でき労働力を確保しやすいことから、日鋼、日本製鉄の両社から最終製品までの材料も好影響を与えよう一貫サプライチェーンだ。

当会では日刊工業新聞と連携し、会員企業の取組を全国発信しています。